

講習全体の感想（個人の感想）



- ・同じ方向を向き、同じ悩みや不安を持ち、話し合い、解決していくことはとても有意義な時間だった。今後社会教育士として、まちづくりに携わっていくにあたり、これまで以上に「出会い」を大切にしたいと感じた。（40代・男性・教諭）
- ・本講習で社会教育という概念に触れ、私の考え方が大きく変化したように思う。これまで取り組んできたことが「社会教育」の一環であるという認識を持てるようになり、多面的な意義を捉えられるようになった。（30代・女性・会社代表）
- ・学校で教壇に立っているものの、知らないことだらけ、知っているつもりのことだらけだった。たくさんの先生方の講習から、世の中のことを知ることができた。（30代・男性・教諭）
- ・これまでの経験や考え方から一定の距離を置き、新たに学ぶことはとても新鮮で刺激的なことだった。これまで「学校教育」という枠の中での学びを追求してきたが、「社会教育」となると、さらに大きな可能性があることに気づかされた。（40代・女性・教諭）
- ・私が思っていた社会教育より想像以上に幅広く、奥が深かった。本講習を終え、現在担当している業務に対する視点や考え方が変わっている。早く地域や学校のために仕事がしたい。（30代・男性・行政職員）
- ・本講習中に多くの人と出会うことができ、これらは、今後の自分にとって、とても大きな財産になったと確信する。全国的な取り組みや、ほかの市町村の動向も学ぶことで、自分の視野を広げることができた。（20代・女性・行政職員）

講習修了者は、「社会教育士」の名称を取得できます！

公民館活動体験について

- ・地域、団体の願いや講師との調整、学校との連携など公民館や社会教育士のもつ力の大きさに魅力を感じた。
- ・公民館が、地域の「つなぐ」「まなぶ」「むすぶ」場として機能しているということが体験を通して理解できた。公民館内の職員構成も多様であり、それぞれが役割をもって協力していくことが大切だと感じた。
- ・社会教育主事の役割が、あらためて生涯学習や学校教育、家庭教育、人権教育・啓発、そしてまちづくりの「お手伝い役」であるということが分かった。
- ・社会教育主事は、何かを学びたいと願う人の支援、誰かに伝えたい何かがある人の支援をしていくという大切な役割を担っている仕事である事がわかった。

阿蘇合宿について

- ・初日の夕食であるカレー作りを皮切りに、毎日寝食を共にしたことで信頼が深まっていった。膝を突き合わせ、腹を割って互いに話をしていくことから、社会教育の学びが生まれてくるのだと思った瞬間だった。
- ・不安と緊張を一気に楽しみに変えてくれたのが、野外体験活動のカレー作りであった。おいしいカレーを作るという共通の目標に向けて役割分担し、積極的にコミュニケーションを取りながら活動した。今回の講習が充実したものになったのはこの活動がとても大きかった。
- ・寝食を共にする一週間の合宿により、受講生同士の絆も深まったと感じた。これにより、講義中の話し合い等も活発になり、より深い学びが実現できた。また、講義外でも気軽に話げることができたことが、より研修を充実したものにする事ができた。



現地研修について

社会教育士



- ・地域における人間関係の希薄化が進む現代においては、そのポジションを社会教育主事が担う、または影の立役者となることが求められているのではないかと強く実感した。
- ・この現地研修では、「実践なき理論は空虚であり、理論なき実践は暴挙である」ということを再確認できた。自分の地域を愛し熱く語るができる子どもや大人を育てていきたいと実感した。
- ・地域の魅力を最大限に引き出すのは、その地で暮らす人々によるものだと強く感じた。「まちづくりは人づくりから」、月並みの言葉だが、今回改めてそう実感した。
- ・『フットワーク』出会いを得るために現地に出向く。『ネットワーク』出会った様々な「もの・人・こと」とつながる。『チームワーク』つながって見えた課題を、出会った仲間と解決する。現地研修で得たつながりを財産とし、これからの社会教育に資することができるよう決意を新たにすることができた。